

## 希望と共に一步を踏み出そう

校長 堀野 智宏

早いもので、日本国内において新型コロナウイルスの感染が報告されてから 3 回目の春を迎えます。この間に社会生活は一変し、手指消毒とマスクの着用は欠かせないものとなりました。ワクチン開発が急速に進められ、今では多くの人が接種することが可能となっています。日本全国で一斉休校措置が取られた時から今に至るまで、新型コロナウイルスへの対応は変化を続け、速やかな感染症対策と多様な予防措置が講じられるようになってきました。しかし、いまだ終わりが見えない感染症対策に、不安や苛立ちが感じられていることも事実です。

ギリシャ神話における神々の王ゼウスは、プロメテウスが天界から持ちだした火を使い始めた人類へのいましめとして、災いをもたらす目的でパンドラという地母神に箱を持たせて人間界に遣わしたとされています。

パンドラが持っていた箱には、疫病や飢え、悲しみや犯罪等の災厄が詰まっていた、開けた箱から世界中に飛び出していきました。その時、箱から飛び出さずに残ったのが「希望」だと言われています。そのため「人間は絶望することなく、希望をもって生きていくことができた」とされています。

イソップ風寓話では、パンドラは神々から祝福が詰まった箱を渡されたが、パンドラと結婚した夫（エピメテウス）が箱を開けたことで、祝福は飛び去ってしまったが、希望だけは残ったとされています。

人は明日を夢見て生きています。未来に希望があるから今日を生きていけます。希望は生きる力の源です。たとえ今が辛くても、望みを捨てずに前を向いて進みましょう。

先日の離任式の挨拶で、某先生が大好きなプロレスラーの言葉を最後に述べていました。由来は禅僧の一休宗純（一休さんのモデルとなった人です）とされています。

「この道を行けばどうなるものか 危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし 踏み出せばその一歩が道となり その一歩が道となる 迷わず行けよ 行けばわかるさ」

校歌の歌詞には「まことの道に励まん」とあります。まことの道は迷いの中で、勇気をもって踏み出す一歩が作りだします。

一歩を踏み出す勇気は希望がくれます。希望は皆さんの心の中にあります。